

「目標の実現に向けて(行政経営の方針)」について

市の考え方の後ろの()書きは、回答した担当部を記しています。

No	意見の内容	市の考え方
市民意見の把握・市民参加について		
1	市民の意見を施策に反映するためにも、職員がより市民の中に入って行って頑張らなければならない。そのための、組織づくりも必要である。	市民にとって真に必要な施策を判断する上で最も大切なことは、市民の声に耳を傾け、多くの意見を聴くことであると考えます。 行政経営の方針1「分かりやすい行政経営」の中で、市民との意見交換の機会を設けることを記述し、市民の意見ができる限り反映された施策を推進していきたいと考えております。(企画部)
2	市民参画、市議会議員はもっと活躍すべき。市長にはもっと話を聞いて欲しい。	
3	徹底した市民参加を促す知恵を出し合って進められることを望みます。	
情報提供について		
4	大和市は情報提供が遅れている。	これまで、速やかな行政情報の提供に努めてきたところでありますが、今後は、市政に対する理解をより深めていただくため、分かりやすさと読みやすさを追求するとともに、迅速な情報提供に取り組んでまいります。(企画部)
5	暮らしに直結した行政情報の提供とあるが、組織改正の広報は分かりにくかった。	ご意見の組織改正の広報誌につきましては、市議会の12月定例会議での主な議案や審議結果の概要をお知らせする紙面として発行いたしました。 4月1日からの組織につきましては、今後、改めて広報やまよ市のホームページでお知らせする予定です。情報提供については、正確で分かりやすい記事となるよう努めてまいります。(渉外室)
行政と市民、地域の関わりについて		
6	行政の仕事のやり方、組織のあり方を良く考えて、行政と市民の役割分担を明確にしてほしい。	市民と行政の役割分担を考えるにあたっては、これまで行政が担ってきた公共サービスをNPO法人などの多様な主体と互いに連携して提供することができる仕組みと市民がまちづくりの活動に参加しやすい環境を整えることが重要と考えます。 基本目標7「市民の活力があふれるまち」の中で市民の力を最大限発揮できる環境づくりと、行政経営の方針1「分かりやすい行政経営」の中で市民参画や協働事業に参加しやすい環境づくりをそれぞれ掲げ、これらの取り組みを通して、行政と市民のあり方、担うべき役割について、十分検討していきたいと考えております。(企画部)
計画の評価について		
7	人の健康のように、まちの健康、社会の健康にも健康診断(評価)をしてほしい。	人の健康、まちの健康、社会の健康をそのまま評価することはできませんが、総合計画の中に、目標の達成度を示す指標を設け、その数値の推移を踏まえ、成果を確認していきたいと考えております。 また、行政経営の方針1「分かりやすい行政経営」の中に、行政評価を基軸としたマネジメントサイクルの確立を掲げ、成果を重視した行政経営を進め、その進捗状況を分かりやすく示してまいります。(企画部)
8	計画の進捗状況を分かりやすく示すようにしてほしい。	
9	市の予算規模、財政状況により進展状況に問題が生じる恐れがある。目標達成に向けて着実にこなして行って、経過報告して欲しい。	

No	意見の内容	市の考え方
事業の選択と集中について		
10	プライオリティをつけることをもっと徹底していく必要がある。	限られた財源の中で有効な資源配分を行い、より質の高い行政サービスを提供していくためには、行政活動が市民にとって十分な成果をもたらしているか、という視点が重要です。今回策定する総合計画では、行政経営の方針1「分かりやすい行政経営」の中に、「目標設定による行政経営」を設定し、市民の視点を大切にして客観的な行政評価の結果を行政経営に反映させる仕組みを確立していきたい考えです。(企画部)
11	メリハリのある行政経営を期待する。	
12	医療体制の充実など喫緊のものと、そうでないものとの見極めが必要である。	
13	予算にあわせて選択と集中が必要である。	
14	実施計画の見直しについては、表点だけでなく要・不要の判断も必要である。	
15	実施段階では、ポイントを絞るべき。	
16	いろいろな意見・要望の中から、プライオリティの高いものから実行に移して欲しい。	
17	完全を目指すのではなく、レベルの低い途上のもののアップを図るべき。	
財源の確保について		
18	財政状況が厳しいのであれば新たな税の導入も検討すべきではないか。	総合計画は、今後10年に亘る本市の目指すまちの姿を示す最重要の計画であり、策定された計画は財源的な裏づけを持ったものでなければなりません。厳しい財政状況の中で、本市が目指す健康創造都市を実現するためには、受益者負担の適正化や収納率の向上を図り、収入確保に努めるとともに、支出の削減を進めながら、限られた財源を重点的、効率的に配分していくことが重要です。総合計画では、行政経営の方針2の「即応性の高い行政経営」の中で健全な財政運営について記述してまいります。(企画部)
19	受益者負担は反発があってもしっかりと実施した方がよい。	
20	計画を推進するためには大変な予算が必要になると思うがどうなっているのか。	
21	財政難を乗り越え、無駄をなくしてほしい。	
22	目標実現のための財源確保が気になる。	
23	今後具体的に施策を展開するときの情報提供や、財源の裏付けが難しいと思う。	
24	財源について、納税状態の把握、指導をしっかりとやってもらいたい。	

No	意見の内容	市の考え方
組織について		
25	たらい回ししないような組織、利便性を考えた組織を望む。問い合わせは一極集中にして欲しい。	その時々々の市民ニーズを施策に反映していくためには、意思決定を迅速化させ、市民にとって分かりやすく、利便性の高い組織を整える必要があります。行政経営の方針2「即応性の高い行政経営」の中で市民ニーズをとらえた組織づくりについて記述し、常に市民に分かりやすい、効率的な組織への見直し、変更を行っていきたいと考えております。(企画部)
26	分かりやすい窓口を。ワンストップ化など。	
27	子ども部と教育委員会の連携がうまくいくか心配	平成21年4月の組織改正により、子育て支援業務と青少年健全育成業務は「こども部」が担い、学校教育に関する業務は「教育部」が所掌する予定ですが、両部の連絡調整を図り、総合的な子ども施策の推進に努めてまいります。(企画部)
28	組織の中に地域担当を設置して、きめ細やかな地域活動の支援を行って欲しい。	現在、市民経済部安全なまちづくり課に防犯地域コミュニティ担当を配置しており、今後も引き続き同担当がきめ細やかな地域活動の支援に努めてまいります。(企画部)
29	分かりやすい行政経営について、タテ割り行政のせい、セクションごとに相反することを言っている。相互理解はセクション同士も必要では。横断的な組織が必要ではないか。	現行の行政システムでは、事業ごとに担当組織間のセクショナリズムが生まれ、場合によって行政サービスの低下を招く恐れがあります。こうした問題に対する取り組みについては、総合計画で直接的に記述しておりませんが、行政経営の方針2「即応性の高い行政経営」にある「施策を円滑に推進するための手法」の一つとして、IT等を活用し、組織内での情報の共有を図り、縦割り行政の弊害を、出来る限り取り除いていきたいと考えております。(企画部)
30	縦割り行政を排除し、横断的な連携を強化してほしい。	
31	行政間、地域団体間でも情報共有が大切。	
広域行政について		
32	広域行政という色合いをもっと出すべき。	社会経済状況の変化に柔軟に対応し、市民に質の高い行政サービスを効率的に提供するためには、周辺自治体などとの連携によるスケールメリットを活かした広域的な連携についても検討していく必要があります。広域行政を行政経営の方針2「即応性の高い行政経営」を実現するための有効な手法の一つとして表現し、広域的な見地にたつての調査研究と具体的な調整を進めてまいります。(企画部)
33	広域行政への取り組みについて方向性を示して欲しい。	
34	今後は、道路整備などを筆頭に、大和市だけではなく、広域での対応が必要になる。	
職員の能力向上について		
35	職員研修をしっかりとやってもらいたい。支援体制も大切。職員のスキルアップ、能力向上が市民サービスにつながる。	大和市の貴重な資源である職員をいかに育成していくかが、今後の行政経営の成否を握る重要な鍵になると考えます。総合計画では、行政経営の方針3で「人財を活かした行政経営」を掲げ、職員研修制度の充実に取り組み、市民に信頼していただける職員づくりに努めてまいります。(企画部)
36	最近の職員は接遇が良く出来ていると感じる。今後も信頼される職員を目指して欲しい。	
37	職員の能力給制度を進めるべきである。	職員が能力を最大限発揮し、組織の活力をより高めるため、公平かつ適正な人事評価に基づき、職員の勤務成績や能力に応じた給与とするよう、取組みを進めます。(総務部)
人財という言葉について		
38	人財という表現は一般的でなく分かりにくい。	大和市では、職員の能力も市の財産の一部と考え、「人財」と表記することとしております。ご意見のとおり、「人財」という言葉だけでは、分かりにくい側面もあるため、総合計画の中で説明を加えていきます。(企画部)

No	意見の内容	市の考え方
職員の姿勢について		
39	市職員は、市民等からの無理な要求を、毅然とした態度で断るべきである。	行政経営の方針3に「人財を活かした行政経営」を掲げ、常に市民の目線、感覚で業務に取り組む職員を育成していくことを記述しています。 今後も、明るいあいさつや的確かつ丁寧な対応を心がけ、市民に信頼していただける職員づくりに努めてまいります。(企画部)
40	子どもを守るためにパトロールのボランティアを行っている。市職員がパトロールをみかけた時、頭を下げるくらいの姿勢をみせてもらいたい。(やる気がなくなる)	
41	市民感覚が大切。市民の気持ちを考えることが大事。	
適材適所の職員配置について		
42	適材適所の職員配置は大事。	厳しい財政状況の中、限られた人財で、市民の満足度の高い行政サービスを提供していくためには、職員一人ひとりが自己の能力を最大限発揮できる環境を整えていくことが重要です。 適材適所の職員配置については、行政経営の方針3で「人財を活かした行政経営」の中に掲げ、職員一人ひとりの適性や経験、専門性に配慮した職員配置に努めていきたいと考えております。(企画部)
43	適材適所の職員配置、具体的にはどうしていくか。方向性としては正しいと思う。	職員が早い段階で自らの適性を認識し自発的に能力を向上させつつ、意欲的にその職務に取り組めるよう、研修等の環境整備を進めるとともに、適性や能力に応じた職員配置を行っていきます。また、勤務成績に応じた適正な処遇を図ることで職員全体の士気を高めていきます。(総務部)